済生会横浜市東部病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

責任基幹施設である済生会横浜市東部病院，関連研修施設である慶応義塾大学病院、他18関連研修施設において，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し，十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する．

本専門研修プログラムは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修４年間のうち、最低６ヶ月は責任基幹施設で研修を行う．
- 慶応義塾大学病院では，可能な限り６ヶ月は研修を行う．
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，状況に応じて19関連研修施設でのローテーションを構築する．

研修実施計画例

年間ローテーション表

	1年目	2年目	３年目	４年目
	済生会横浜	済生会横浜市	済生会横浜市東部	国家公務員共済組

	市東部病院	東部病院６ヶ月、慶應義塾大学病院６ヶ月	病院６ヶ月、東京都立小児総合医療センター6ヶ月	合連合会立川病院６ヶ月、済生会横浜市東部病院６ヶ月
	済生会横浜市東部病院	慶應義塾大学病院６ヶ月、済生会横浜市東部病院６ヶ月	東京都立小児総合医療センター6ヶ月、済生会横浜市東部病院６ヶ月	川崎幸病院6ヶ月，済生会横浜市東部病院６ヶ月

週間予定表

済生会横浜市東部病院の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
時間外			宿直			待機	

4. 研修施設の指導体制

①　専門研修基幹施設

社会福祉法人恩恵財団済生会横浜市東部病院

研修プログラム統括責任者：佐藤智行

専門研修指導医：

佐藤智行（麻酔，集中治療）
谷口英喜（周術期管理，麻酔）
高橋宏行（集中治療，麻酔）
上田朝美（麻酔，集中治療）
斎藤郁恵（麻酔）
秋山容平（麻酔，心臓麻酔）
冨田真晴（麻酔）
佐藤貴紀（麻酔，集中治療）
三浦梢（麻酔）
鎌田高彰（麻酔，周術期管理）
玉井謙次（集中治療，麻酔）
中山博介（麻酔）

竹田渓輔（麻酔）
田中敬大（麻酔，心臓麻酔、区域麻酔）

専門医：

佐藤雄生（麻酔，区域麻酔）
稲垣里穂（麻酔）
津田匠太（麻酔）
松岡雄治（麻酔）
松尾津波（麻酔）
宇佐美清吾（集中治療，麻酔）

麻酔科認定病院番号　1315

特徴：済生会横浜市東部病院は平成 19 年 3 月に開院し、地域に根ざした横浜市の中核病院として、そして済生会の病院として、救命救急センター・集中治療センターなどを中心とした急性期医療および種々の高度専門医療を中心に提供する病院である。また、急性期病院であるとともに、ハード救急も担う精神科、重症心身障害児（者）施設も併設されている。また、「より質の高い医療の提供」に加え「優秀な医療人材の育成」も重要な使命と考え、研修医、専門医の育成にあたっており、医師、すべての職員が、充実感をもって働くことができる職場環境の整備にも積極的に取り組んでいる。

②専門研修連携施設

慶應義塾大学病院

〒160 - 8582　東京都新宿区信濃町35　　TEL：03 – 3353 – 1211

URL：http://www.hosp.keio.ac.jp/

研修プログラム統括責任者：山田　高成

専門研修指導医：

山田　高成　（麻酔、集中治療）
小杉　志都子（麻酔、ペインクリニック）
三笠　裕美　（麻酔、小児麻酔）
福田　陽子　（緩和医療）
御園生　与志（麻酔）
大橋　夕樹　（麻酔、産科麻酔）
壽原　朋宏　（麻酔、集中治療）
増田　祐也　（麻酔、区域麻酔）
若泉　謙太　（麻酔、ペインクリニック）
伊原　奈帆　（麻酔、緩和医療）
阪本　浩平　（麻酔）
寅丸　智子　（麻酔、小児麻酔）
細井　卓司　（麻酔）
星野　麗子　（麻酔、ペインクリニック）
若宮　里恵　（麻酔、産科麻酔）
鈴木　悠太　（麻酔、集中治療）
戸谷　遼　　（麻酔、心臓麻酔）
生駒　祐介　（麻酔、集中治療）
藤田　治人　（麻酔、集中治療）
岡本　泰治　（麻酔、集中治療）
小山　祐果　（麻酔、小児麻酔）
関谷　由希　（麻酔）
加藤　英恵　（麻酔、小児麻酔）
松沢　真奈　（麻酔、産科麻酔）
森川　紗希　（麻酔）

専門医：
岡本　善基　（麻酔、ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号　：　3
特徴：経皮的心臓弁膜症手術を含む様々な先進的手術、臓器移植あるいは種々の合併症を有する患者の手術、多科合同手術など、麻酔管理の質が問われる症例が数多くあり、入念な麻酔計画を立て専門研修指導医のサポートの下で周術期管理を経験出来ます。抄読会や勉強会、シミュレーション教育も積極的に行い、様々な局面に的確に対応できる知識や技術の習得に日々努めています。必要経験症例の手術件数も非常に多く、年次や経験に応じて目標を設定して研修をサポートしています。

東邦大学医療センター大橋病院
研修プログラム統括責任者 ：豊田大介
専門研修指導医：
小板橋俊哉（緩和医療、麻酔、集中治療）
豊田大介（麻酔）
牧裕一（麻酔、集中治療）
下井晶子（麻酔）
専門医：川原小百合（ペインクリニック、麻酔）
阿部理沙（麻酔）
坂本優安（麻酔）

麻酔科認定病院番号 :193
特徴：周術期センターが設置されており、麻酔科医、薬剤師、看護師、歯科衛生士による総合的な評価を行い、術前から術後まで安全で質の高い管理が可能となっている。ペインクリニックは麻酔科発足以来、慢性疼痛の診断と治療を全国に先駆け教室のテーマとしている。また、集中治療、呼吸ケアチームでも麻酔科が中心となり活動している。

東邦大学医療センター大森病院
研修実施責任者：武田　吉正
専門研修指導医：
武田　吉正（区域麻酔・集中治療）
石川　慎一（手術麻酔・ペインクリニック）

花崎　元彦（手術麻酔・集中治療）
武藤　理香（小児麻酔）
岩本　津和（手術麻酔・教育）
岸田　浩一（手術麻酔・心臓血管麻酔）
土肥　泰明（手術麻酔・心臓血管麻酔）
矢野　喜一（手術麻酔・心臓血管麻酔）
村上　徹（手術麻酔）
小野寺　勇人（手術麻酔・心臓血管麻酔）
尾崎　由佳(手術麻酔)

専門医：

大越　一毅（手術麻酔・心臓血管麻酔）
安田　絢子（手術麻酔・心臓血管麻酔）
遠藤　奈穂（手術麻酔・心臓血管麻酔）
島津　恵介（手術麻酔・心臓血管麻酔）
中谷　剛仁（手術麻酔・心臓血管麻酔）
永野　菜月 （手術麻酔・心臓血管麻酔）
鈴木　崇文 （手術麻酔・小児麻酔）
秋山　拓也（手術麻酔・心臓血管麻酔）
阿瀬　千咲（手術麻酔）
久保　瑠依志（手術麻酔）
崔　英姫（手術麻酔）
藤田　彩恵（手術麻酔）
丹治　紗百合（手術麻酔・心臓血管麻酔）
朴　　在元（手術麻酔・心臓血管麻酔）
中澤　凛（手術麻酔）
川木　譲（手術麻酔）
岩井　愛（手術麻酔）

専攻医：

吉岡　慶太郎
森　厚槙

麻酔科管理症例数：5719 症例

特徴：術前から術後の ICU 管理までを担当し、周術期の全身管理を修得します。手術麻酔、集中治療、ペインクリニック、無痛分娩、周術期センターを幅広く研修できます。区域麻酔では運動枝を温存し知覚をブロックする awake hand surgery など様々なブロックを行っています。臨床解剖を行っており高難度な神経ブロックを安全に修得できます

さいたま市立病院

研修プログラム統括責任者：忍田純哉

専門研修指導医：

忍田純哉（麻酔）
中村教人（麻酔，集中治療）
安藤嘉門（麻酔，集中治療）
佐藤正顕（麻酔，心臓麻酔）
石川紗希（麻酔，集中治療，小児）
勅使河原綾野（麻酔，小児）

麻酔科認定病院番号：612

特徴：さいたま市立病院は，地域の基幹病院として，急性期医療を中心に高度な医療を提供するという使命・役割を果たしている．内容はあらゆる科・臓器・年齢にわたっており，麻酔の研修に不足は全くない．救急医療も積極的に推進しており，救命救急センターよりの 3 次救急や心臓外科や脳神経外科を含めた広い分野での緊急手術の麻酔管理の研修が可能である．また、NICU を完備した周産期センターを併設しているので，ハイリスク妊娠患者の麻酔管理から，低体重の新生児麻酔まで研修可能である．がん診療拠点病院でもあるので，高齢者の管理を含め，がん関連の症例からも学ぶこと（疼痛管理も含めて）は多い．地域の高齢化もあり，骨折等の整形外科手術も多く，神経ブロックの習得にも有利である．

新百合ヶ丘総合病院

研修プログラム統括責任者：伊藤 寛之

専門研修指導医：

伊藤 寛之（麻酔，ペインクリニック）
中西 英世（麻酔，緩和医療）
上田 佳代（麻酔，小児麻酔）
土居 朗子（麻酔）
山崎 祐子（麻酔）

木村 真也（麻酔，心臓麻酔）
華山 悟　（麻酔，心臓麻酔）
浅野 麻由（麻酔，心臓麻酔）
根波 朝陽（麻酔）
伊藤 由莉（麻酔）
金岡 由紀（麻酔）
坂口 了太（麻酔，集中治療）

専門医：

冨田 知恵（麻酔）
宍井 美穂（麻酔）
太田 昇吾（麻酔）
米田 誠　（麻酔）

専攻医：

郡家 慶浩
一井 利文
櫻井 隆行
來住野 翔
九本 将文

麻酔科認定病院番号：1598

特徴：新百合ヶ丘総合病院は，川崎市北部医療圏における高度急性期病院として，2012年8月に開院した総合病院です．救急車受入年間約9000台，病床稼働率約96%，外来患者数1日平均1100名を超え，現在全身麻酔下において手術のできる手術室が14室あります．

また救急センターの施設拡充により，応需率向上・受入重症度／対応疾患の拡大に取り組み，地域にさらなる貢献ができるよう，体制を整えました．

手術前には患者さんの全身状態をチェックし，合併症の改善，全身状態の安定を図り，より良い状態のもと手術に臨んでいただけるようにします．また丁寧な説明を心掛け，患者さんの術前の不安を取り除くように取り計らっています．

術後鎮痛は，持続硬膜外ブロック，その他各種ブロックもエコー下に実施します．何らかの理由でブロックができない方にはマイクロポンプを使った持続静脈鎮痛を行い，患者さんが術後快適に過ごせるようにする取り組みも行っております．

常により安全で痛みの少ない麻酔を提供し，安心して治療を受けていただけるよう努力しております．

当院の手術症例の特徴として婦人科・外傷再建センター・脊椎脊髄末梢神経外科・呼吸器外科，泌尿器科等の手術件数が多く，手術支援ロボット（泌尿器科，婦人科，呼吸器

科, 消化器で使用), サイバーナイフG4など先端医療機器の導入・研修も積極的に行い, 「すべては患者さんのために」の理念のもと，優秀な人材育成に力を入れております.

東海大学医学部付属病院

研修プログラム統括責任者：鈴木 武志

専門研修指導医：

鈴木 武志（麻酔、集中治療）
伊藤 健二（麻酔、ペインクリニック）
渡邊　真理子（麻酔、臨床研究）
瓜本 言哉（麻酔、心臓血管麻酔）
姜　卓義（麻酔、基礎研究）
細井　貞則（麻酔、心臓血管麻酔）
伊藤 美保（麻酔，緩和医療）
野村　準（麻酔、区域麻酔）
鈴木　雄大（麻酔、ペインクリニック）
竹中　恭一郎（麻酔、区域麻酔）
山田　悠輔（麻酔、小児麻酔）
梅本　みずき（麻酔、小児麻酔）
白勢　康介（麻酔、集中治療）
高橋　柊哉（麻酔、区域麻酔）
河本　秀香（麻酔、心臓血管麻酔）

麻酔科認定病院番号：116

特徴：麻酔科管理手術症例が年間9000件を超え、三次救急を行っているため外傷を含めた緊急手術も多く，心臓外科・呼吸器外科・小児外科などの特殊麻酔も豊富で、近年はロボット支援下手術も数多く行われています．専門医になるための必要症例数を十分に経験できます。院内急変患者や術後重症患者を管理する集中治療室は32床のベッドを有し，今後は麻酔科医も集中治療管理へさらに関わっていく予定です。勉強会，学会発表も積極的に行っております.

東京都済生会中央病院

研修実施責任者：佐藤　暢一

専門研修指導医：

佐藤　暢一　（麻酔全般、集中治療）
齋藤　慎二郎（麻酔全般）

奥　和典　　（麻酔全般、産科麻酔）
樋口　慧　　（麻酔全般、神経ブロック）
宮山　直樹　（麻酔全般）
一柳　弘希　（麻酔全般、心臓麻酔、小児麻酔）
鈴木　陽　　（麻酔全般）
齋藤　陽菜　（麻酔全般、神経ブロック）
馬場　寛子　（麻酔全般）
黒瀬　瞳　　（麻酔全般、心臓麻酔、小児麻酔）
静谷　泉　　（麻酔全般、心臓麻酔、小児麻酔）
佐川　智紀　（麻酔全般、心臓麻酔）

認定病院番号：978
特徴：済生会中央病院は大正 4 年開院の済生会芝病院を前身とし,東京都港区中央部に位置し, 35 の診療科を備える総合病院である.麻酔科専門研修においては一般外科,心臓血管外科,呼吸器外科,脳神経外科,整形外科,血管外科,産婦人科,泌尿器科,TAVI（経カテーテル大動脈弁植え込み術）など幅広い症例の麻酔管理を研修することが可能である.また当院は東京都指定の三次救急医療機関かつ災害拠点病院であり,多数の救急搬送患者を受け入れている.そのため多くの緊急手術や重症患者の麻酔管理を経験することができる.手術麻酔以外では手術前外来を開設しており,集中治療,和痛分娩,緩和医療などの業務も担っている.希望に応じてこれらの麻酔科関連領域の研修も可能である.当院の麻酔科専門研修プログラムにおいては,1-2 年次は当院で全般的な麻酔研修を指導医とともに行う.当科は特定の大学病院医局の関連施設ではないが,研修関連施設には小児麻酔,小児心臓麻酔,心臓麻酔の症例数が多い病院が含まれており,3 - 4 年次は個人の希望に応じてそれらの施設で特定の分野の専門研修を行う事が可能である.

川崎市立川崎病院
研修プログラム統括責任者：森田慶久
専門研修指導医：
森田　慶久（麻酔、集中治療）
菅　規久子（麻酔、集中治療）
梶谷　美砂　（麻酔、緩和ケア）
奥田　淳　（麻酔、集中治療）
出野　智史　（麻酔、集中治療）
平畑　枝里子　（麻酔、集中治療）
石渡　博昭　　（麻酔、集中治療）

岡部　久美子（麻酔）
瀬上　和貴　（麻酔）

麻酔科認定病院番号　199
特徴：川崎市立川崎病院は、病床数約700床を擁し、麻酔科管理の手術症例数は年間4500例を超える川崎市の地域基幹病院である．各診療科が揃い、移植外科や小児心臓外科等の特殊症例を除く、すべての診療科の手術を経験することができる．３次救急指定病院であり、緊急手術症例も豊富である．マンパワー、教育体制も充実しており、丁寧な指導を受けながら幅広く症例を経験できる．当院麻酔科では、画一的な麻酔にとらわれず、プロフェッショナルとして様々な状況に柔軟に対応できる懐の深い麻酔科医を育てたいと考えている．手術室業務のほかにICU業務も兼務しており、集中治療の研鑽も積むことができる．責任基幹施設である川崎市立川崎病院をはじめ、連携研修施設の川崎市立井田病院、済生会横浜市東部病院、東京都立小児総合医療センター、社会医療法人財団石心会 川崎幸病院、日本鋼管病院、慶応義塾大学病院、さいたま市立病院、東海大学病院、新百合ヶ丘総合病院において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し，十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する．

本研修プログラムは，麻酔科専門医の育成を行う中で、連携施設での勤務を通じて地域医療への貢献も同時に実現していけるよう配慮されている．

獨協医科大学埼玉医療センター

研修プログラム統括責任者：奥田泰久（麻酔、ペインクリニック）
専門研修指導医：
奥田泰久（麻酔、ペインクリニック）
浅井隆（麻酔，医学統計、気道確保）
新井丈郎（麻酔，心臓麻酔）
齋藤朋之（麻酔，気道確保）
齊間俊介（麻酔，神経ブロック）
橋本雄一（麻酔）
鈴木博明（麻酔，心臓麻酔，小児麻酔）
遠藤聖子（麻酔，小児麻酔，心臓麻酔）
高橋慧　（麻酔，心臓麻酔）
菊地梓（麻酔）
立川真人（麻酔，ペインクリニック）
宮﨑真理恵（麻酔）

鶴町直威（麻酔,ペインクリニック）
卜部一弘（麻酔,ペインクリニック）
藤城明日香（麻酔）
永山英寿（麻酔）
鹿島田瞬也（麻酔）
増井克秀（麻酔）
小川理恵（麻酔）
坂口玲奈（麻酔）

認定病院番号：339
特徴：開心術,TAVI やステントグラフトなどのハイブリット手術,一般的な小児外科手術,帝王切開術,ダヴィンチ・ヒノトリ手術,Awake craniotomy,腎移植術など，幅広く症例を経験出来る.

聖路加国際病院
研修実施責任者：阿部　世紀
日本麻酔科学会指導医・厚生労働省認定臨床研修指導医資格：
専門研修指導医:
阿部　世紀　（麻酔、小児麻酔）
藤田　信子　（麻酔、心臓麻酔、産科麻酔、ペインクリニック）
佐久間　麻里　（麻酔、救急）
林　怜史　（麻酔、心臓麻酔、ICU）
篠田　麻衣子　（麻酔、区域麻酔）
早坂　知子　（麻酔、区域麻酔）
宮坂　清之　（麻酔、小児麻酔、シミュレーション教育）
小山　杏奈　（麻酔、ペインクリニック、産科麻酔）
城本　菜那　（麻酔、心臓麻酔）
大橋　雄大　（麻酔、産科麻酔）
井上　真由子　（麻酔、心臓麻酔）
坂野　彩　（麻酔、心臓麻酔）
吉武　朱里　（麻酔、産科麻酔）
蓮下　雄大　（麻酔、ペインクリニック）
山上　郁雄　（麻酔、心臓麻酔）
ハシチウォヴィッチ トマシュ　（麻酔、APS）
鈴木亜沙美　（麻酔、産科麻酔）

認定病院番号：249
特徴：当院の手術室は 15 室あり、心臓外科、小児外科、胸部外科、腹部外科、脳神経外科、無痛分娩、また先端医療（TAVI、Mitralclip、Da Vinci 手術（泌尿器、呼吸器外科、婦人科、外科、心臓外科）など）も含めた、幅広い症例が経験できる。
挿管・硬膜外カテーテル留置・中心静脈カテーテル留置、神経ブロックなど、様々な手技を習得し、合併症のある症例の麻酔も上級医の指導のもと独立して担当できます。心臓血管麻酔・産科麻酔など、将来サブスペシャリティー領域へ進む足がかりとなるトレーニングが受けられる。

東京慈恵会医科大学附属病院（本院）
研修プログラム統括責任者：上園　晶一 ＊ （麻酔）
専門研修指導医：

上園　晶一 ＊ （麻酔）
木山　秀哉（麻酔）
坪川　恒久 ＊ （麻酔）
近藤　一郎（麻酔）
三尾　寧 ＊ （麻酔）
倉田　二郎 ＊ （ペインクリニック）
桜井　康良（麻酔）
谷口　由枝（麻酔）
香取　信之（麻酔）
虻川　有香子（麻酔）
須永　宏（麻酔）
照井　貴子（麻酔）
木田　康太郎（麻酔）
遠藤　新大（集中治療）
山川　健太郎（麻酔）
八反丸　善康（ペインクリニック）
池田　浩平（麻酔）
小池　正嘉（麻酔）
鈴木　薫（麻酔）
山口　知紀 ＊ （麻酔・医局長）
宮﨑　絵里佳（麻酔）
藤岡　頌子（麻酔）
酒巻　大輔（麻酔）

専門医：

八木　洸輔（集中治療）
高橋　和成（集中治療）
中村　紗英（集中治療）
中村　瑞道（麻酔）
前田　隼（集中治療）
内山　敬太（麻酔）
大野　浩次郎（麻酔）
河田　悠（麻酔）

認定病院番号：60
特徴：ペイン，集中治療，救急部のローテーションが可能． 特定機能病院（高度先進医療）や周産期母子医療センター、三次救急医療機関としての特色を持つ

聖マリアンナ医科大学病院（以下，聖マリアンナ医科大学本院）

研修プログラム統括責任者：井上荘一郎
専門研修指導医：

井上荘一郎（臨床麻酔,術後鎮痛,ペインクリニック）
坂本三樹（心臓血管,小児,周産期）
清野雄介（集中治療）
小幡由美（心臓血管,小児）
田澤利治（ペインクリニック,緩和）
升森泰（区域麻酔,臨床麻酔）
平幸輝（臨床麻酔,術後鎮痛）
横塚牧人（臨床麻酔）
中山知沙香（臨床麻酔）
浜辺宏介（臨床麻酔）
伊東裕美（集中治療）
内藤善介（臨床麻酔）
奥田紘隆（臨床麻酔）
野村浩清（臨床麻酔,ペインクリニック）
髙木摩衣（臨床麻酔）
玉城ゆり子（臨床麻酔）

麻酔科認定病院番号：100
特徴：豊富な症例数，ペイン，集中治療のローテーション可能

総合病院国保旭中央病院

研修実施責任者：平林　和也

専門研修指導医：

平林　和也　（麻酔、ペインクリニック）
青野　光夫　（麻酔）
長谷川まどか（麻酔）
大江　恭司　（麻酔、集中治療）

認定施設番号：375

特徴：千葉県東部から茨城県南部にわたる90万人規模の診療圏を支える中核病院として、地域医療支援病院、救命救急センター、基幹災害拠点病院、地域周産期母子医療センター等の機能を有する。救急外来は一次から三次の救急患者に対応している。手術室では多くの科の緊急手術を担当する機会があり、地域医療の現場で経験すべき症例には事欠かない。

国家公務員共済組合連合会 立川病院

〒190 - 8531 東京都立川市錦町 4 – 2 - 22 TEL:042 – 523 – 3131(代表)
URL:https://www.tachikawa-hosp.gr.jp/

研修実施責任者:羽鳥 英樹

専門研修指導医：

羽鳥 英樹（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
福積みどり（麻酔）
小竹良文（麻酔、集中治療）
乾 龍男（麻酔）
浅原　美保（麻酔）
渡邊 美子（麻酔）

専門医：

岩田有紀(麻酔)
古田和睦(麻酔)

認定病院番号:337

特徴:東京都の南多摩地区にあり地域の急性期病院として多くの症例を受け入れている。地域がん診療連携拠点病院、周産期連携病院、東京都災害拠点病院、東京都地域救急医療センター、精神障害者身体合併症治療施設などの指定を受けており、一般的な周術期管理以外に産科麻酔や精神障害者の身体合併症症例など幅広い症例を経験することができる。また日本緩和医療学会の認定研修施設となっており、緩和ケアチームの一員として研修を行うことも可能である。そのほか無痛分娩や患者支援センター、術後疼痛管理チームなど幅広い活動を行っており、専門的な知識の習得や経験を積むとともに他職種連携のチーム医療を通じて麻酔科医としてより多くのことを学び、成長することができる環境である。

日本鋼管病院

研修プログラム統括責任者：村瀬頼子

専門研修指導医：

津崎晃一(麻酔、ペインクリニック)
村瀬頼子(麻酔)
澁谷有香（麻酔)
竹村夏季(麻酔、ペインクリニック)

麻酔科認定病院番号：1252

特徴：「日本鋼管病院は 1918 年に設立され、100 年以上の歴史を持つ。1986 年には病床数は 395 床となり現在に至る。地域医療の中核を担いつつ、特に脊椎外科、スポーツ整形外科手術に強みをもち、これらの分野の最先端手術が多く行われている。より質の高い医療の提供のみならず、有能な人材の確保も重要なプロジェクトとして病院一丸となって職場環境の整備に取り組んでいる。

東京都立小児総合医療センター

研修実施責任者：西部　伸一

専門研修指導医：

西部　伸一	(小児麻酔)
山本　信一	(小児麻酔)
簑島　梨恵	(小児麻酔)
伊藤　紘子	(小児麻酔)
箱根　雅子	(小児麻酔)
佐藤　慎	(小児麻酔)

千田雄太郎　　（小児麻酔）

専門医：

福島　達郎　　（小児麻酔）

和田　涼子　　（小児麻酔）

認定病院番号：1468

特徴：地域における小児医療の中心施設であり、治療が困難な高度専門医療、救命救急医療、こころの診療を提供している。年間麻酔管理件数が 4000 件以上と症例数が豊富で、一般的な小児麻酔のトレーニングに加え、新生児麻酔、心臓麻酔、気管形成術の麻酔などの研修が行える。また、積極的に区域麻酔を実施しており、超音波エコーガイド下神経ブロックを指導する体制も整っている。2019 年度より心臓血管麻酔専門医認定施設となっている。

社会医療法人財団石心会川崎幸病院

研修プログラム統括責任者：高山渉

専門研修指導医

高山渉（麻酔，心臓血管麻酔）
迫田厚志（麻酔，心臓血管麻酔）
原田昇幸（麻酔，心臓血管麻酔）
関周太郎（麻酔，心臓血管麻酔）
砂永仁子（麻酔，心臓血管麻酔）
中村繭子（麻酔，心臓血管麻酔）
入江駿（麻酔，心臓血管麻酔）

専門医

藤田夏樹(麻酔，心臓血管麻酔)
小路麻里(麻酔，心臓血管麻酔)

麻酔科認定病院番号：1480

特徴： 全国でも TOP の件数の胸部・胸腹部大動脈手術の実績があり，麻酔科専門医をめざす方にとって，多くの心臓血管外科手術の麻酔を経験できることが最大の特徴です。特に胸腹部大動脈瘤手術を当院ほど数多く経験できる施設はあまり存在しないと考えます。更に近年では従来の胸腹部大動脈手術に加え，僧帽弁・大動脈弁の置換のみならず形成術，オフポンプ CABG や TAVI，Watchman®，M-TEER などの心臓手術（血管内含む）も実施され，心臓血管外科領域の症例数は約 1400 です。また緊急手術も多いため，管理にも多様なバリエーションがあり，専門医教育施設として今後も発展できると考えています。当院は，麻酔科専門医を目指す方にとって，豊富な症例数と国際的知見も含めた幅広い経験を得ることができる環境です。

川崎市立井田病院

研修プログラム統括責任者：中塚逸央（会員番号 5108）

専門研修指導医：

中塚逸央（麻酔）

伊藤真吾（麻酔、集中治療）

認定病院番号：1284

特徴：当院は、地域の医療ニーズに合わせて救急対応病棟を設置、急性期から退院への橋渡しを行う地域包括ケア病棟、1998 年開設の緩和病棟、現在では川崎市内で唯一結核入院設備を有しており、癌診療、緩和ケア、在宅医療に至るまで地域医療の充実が得られるよう対応している。また 2022 年には神奈川県災害拠点病院に指定、2024 年に地域医療支援病院として承認された。麻酔科管理症例は外科、泌尿器科、整形外科の症例が多く泌尿器科では手術支援ロボット・ダビンチを使用した前立腺や膀胱手術を行っている。信頼される医療を提供できるよう臨床能力を高めるとともに、患者さんはもとより他の医療職とのコミュニケーション能力を身に付けられる医師の育成に尽力している。

医療法人社団明芳会 横浜旭中央総合病院

研修実施責任者：稲木　敏一郎

専門研修指導医：稲木　敏一郎（麻酔一般）

和田　美紀　（麻酔一般）

認定病院番号：1163

特徴：外科（消化器、呼吸器、乳腺、血管外科）、整形外科、脳神経外科、形成外科手術が多い。救急車受け入れ数は年間 10000 台を超え高次機能病院を凌駕し、積極的に救急患者を受け入れて、緊急手術や重症症例の麻酔を多く経験できる。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

①　採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法・期日に準じて、志望の研修プログラムに応募する.

②　問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，済生会横浜市東部病院麻酔科専門研修プログラムwebsite，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

済生会横浜市東部病院　麻酔療科部長　佐藤智行
神奈川県横浜市鶴見区下末吉3-6-1
TEL 045-576-3000（代表）
E-mail tmykst310@gmail.com
Website　：http://www.tobu.saiseikai.or.jp

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②　麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. 専門研修方法

別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨

床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. **専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス**

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目
手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修２年目
1 年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪い ASA３度の患者の周術期管理や ASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修３年目
心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修４年目
3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

9. **専門研修の評価（自己評価と他者評価）**

①　形成的評価

● 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
● 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修 4 年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は, 研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする.
- 専門研修の中断については, 専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる.

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる. その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める.

13. **地域医療への対応**

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としてのさいたま市立病院，獨協医科大学埼玉医療センター，総合病院国保旭中央病院などの連携施設が入っている. 医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し, 適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い, 当該地域における麻酔診療のニーズを理解する.

14. **専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）**

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります. 専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします. プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備, 労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します.

年次評価を行う際, 専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い, その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します.